

大阪国際大学 産学連携ミニプロジェクト プログラム －「子供スポーツ教室」に関するプログラム実践報告－

世戸 俊男^{*1} 古賀 典之^{*2} 矢寺 重敏^{*3}

Implementation of a Youth Sports Program An Osaka International University-Industry collaborative mini-project

Toshio Seto^{*1} Noriyuki Koga^{*2} Shigetoshi Yatera^{*3}

キーワード

地域連携、プログラム運営、保護者の期待度・満足度

1：はじめに

子供スポーツ教室は、公益財団法人「枚方体育協会」と学校法人「大阪国際大学」との産学連携ミニプロジェクトプログラムの一貫として、大阪国際大学「枚方校」のグラウンドおよび体育館を活用して2010年度（前期10回・5月開催、後期10回・10月開催、年間2回、各期1回の野外活動（選択参加）を含む）から「子供スポーツ教室」を開催している。

公益財団法人「枚方体育協会」は、「市民の体力の向上とアマチュアスポーツの普及をはかり、あわせて各種スポーツ団体の組織の充実と社会体育施設の推進をはかりもって市民スポーツの振興に寄与する」ことを目的としており、昭和22年に4団体で創立され、昭和49年6月に組織の強化を図るため、加盟25団体で法人化した。平成22年7月1日より、公益財団法人として新たにスタートし、現在では、加盟24団体となり、各種大会等の開催やスポーツ施設の管理運営（枚方市より受託）など、市民スポーツの振興に寄与している法人である。また、枚方体育協会は、総合型地域スポーツクラブひらかた「キングフィッシャーズスポーツクラブ」を設置・運営を行なうことで、枚方市民みんなのスポーツと健康をサポートしている。（HP アドレス）そして、学校法人「大阪国際大学」では、公益財団法人「枚方体育協会」との連携プログラムである「産学連携ミニプロジェクトプログラム」を締結し、本プログラムの展開および実践することによる地域連携への貢献ならびに寄与することとしている。具体的には、①本学の授業の一貫として学生の企画やマーケティングの能力を活用することで、青少年の体力向上や健全育成や地域のコミュニティづくりに貢献する。②現代社会の問題の一つである子供の身体と心を養いつつ、こどものコ

*1 セト としお：大阪国際大学ビジネス学部経営デザイン学科特任教授（2011.12.9受理）

*2 こが のりゆき：株式会社リーチ講師

*3 やてら しげとし：公益財団法人枚方体育協会総務課課長

コミュニケーションづくりに貢献する。③多様なスポーツ・レクリエーション活動を、本学学生の指導を基に展開および実践することを目的とした。また、「子どもスポーツ教室」は、①遊びやスポーツを通じた子供の体力向上。②子供のコミュニケーション能力の向上。③近隣校区の地域づくり。④総合型地域スポーツクラブ理念の普及を基本理念としており、実際の活動では、小学校期の発育発達過程において神経系が最も発達する時期であることから、この発達過程を考慮した「遊び、運動、スポーツ活動」を実践することで子供達の成長に寄与することを活動理念としている。すなわち、活動期間中は特定のスポーツ活動を行うのではなく、「歩く、走る、跳ぶ、投げる、捕る、蹴る、道具を使う」をキーワードとして、さまざまな「運動やスポーツ」（体力測定、サーキット運動、サッカー、ポートボール、Ｔ－ボール、野外活動）に取り組むことで、総合的な身体活動能力が向上するようにプログラムの構成を行なっている。以上のような基本理念や活動理念を「子供スポーツ教室」の特徴として活動を実践している。2010年度のプログラムでは、第１回（前期）のプログラムは、活動参加者12名で、2010年（平成22年）５月８日（土）から2010年（平成22年）８月７日（土）の期間で開催した。第２回（後期）のプログラムでは、参加者39名となり、2010年（平成22年）10月２日（土）から2010年（平成22年）12月18日（土）の期間で開催した。そして、2011年度（平成23年）、昨年度同様に継続プログラムとして、第３回「子供スポーツ教室」を以下に示す通り開催した。

２：2011年度（平成23年度）「子供スポーツ教室」前期開催要項

日 程：2011年（平成23年）５月14日（土）から同年７月23日（土）までの計10回。（内、
６月18日（土）は、枚方市野外活動センターでの野外活動）
場 所：大阪国際大学 枚方校 グランドおよび体育館
時 間：午前９時30分から11時00分まで
活動内容：測定、Ｔ－ボール、ポートボール、サッカー
指 導 者：枚方体育協会、大阪国際大学産学連携ミニプロジェクト履修生およびボランティア学生

３：2011年度（平成23年度）「子供スポーツ教室」参加者状況

2011年度（平成23年度）「子供スポーツ教室」前期の参加者の状況は、図－１の通りであった。

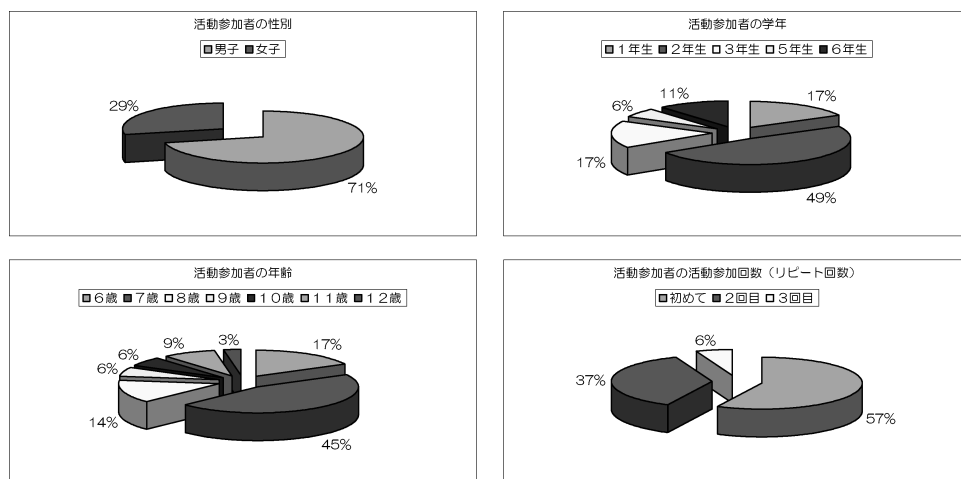


図-1 2011年度(平成23年度)「子供スポーツ教室」参加者状況

活動参加者合計は、全員で35名であり、その内訳では、活動参加者の性別は男子25名(71%)、女子10名(29%)。活動参加者の学年別では、1年生6名(17%)、2年生17名(49%)、3年生6名(17%)、5年生2名(6%)、6年生4名(11%)。活動参加者の年齢別は、6歳6名(17%)、7歳16名(45%)、8歳5名(14%)、9歳2名(6%)、10歳2名(6%)、11歳3名(9%)、12歳1名(3%)。

また、参加者の活動参加回数では、今回初めてが20名(57%)、2回目が13名(37%)、3回目が2名(6%)であった。

4:「子供スポーツ教室」プログラム

4-1:「子供スポーツ教室」スケジュール

2011年度(平成23年度)「子供スポーツ教室」(前期)のプログラム内容を表-1に示した。また、昨年度(2010年度)の反省を踏まえ、教室で行う活動種目を4種目から3種目に変更して行なった。

表-1 「子供スポーツ教室」スケジュール

5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23
記録会	T-ボール			ポートボール			サッカー	記録会	サッカー

4-2:「子供スポーツ教室」プログラム内容（デイリープラン・タイムスケジュール）

子供スポーツ教室 プログラム表		
日時：2011年 5月21日（土）、場所：大阪国際大学校、天気：		
参加リーダー：		
時 間	プログラム（担当者・場所）	必要物品・備考
9:00	リーダー集合、リーダーズ・ミーティング開始 ミーティング終了後各セッティングとお迎え 受付（担当：リーダー）：7号館前 ガムテープに名前を書いてシャツに貼る 受付終了後グラウンドに誘導する	場所案内看板、プログラム表 参加者名簿、筆記用具、名札 用ガムテープ、マジック、
9:30	（挨拶）プログラム開始 準備運動：ジョギングと体操 サーキット運動 サーキット運動終了後、T-ボール 初回次席者は記録係（体育館移動）記録係終了 後合流 測定終了後T-ボール 1：キャッチボール（各種：ゴロ、遠投等） 注）キャッチボールは全体で行いますがリーダー は担当グループを意識して子ども達に指 導を行なう 2：守備練習（ノック形式） 3：バッティング練習 注）2・3は、学年によるグループに分けて、 担当リーダー達です子ども達に指導を行なう。 整理体操（リーダー） 後片づけ（メンパー&リーダー） 集合：次回の案内（挨拶） 解散：お見送り 終了後：リーダーズ・ミーティング	記録用具、筆記用具、クリッ プボード、メジャー、ストップ ウォッチ、三角コーン、ホ イッスル、T-ボール機具
10:50		
11:00		
注意	リーダー達が率先して、子ども達に元気よく挨拶を行ないましょう（言葉遣い には注意する） 指導中は、子ども達がひとりひとりをよく観察し、「どのようにしたら上達す るのか」を考えましょう。そうすれば、子ども達ひとりひとりに対する技術的 な指導と必要なアドバイスが見つかります 指導中は、参加している子ども達ひとりひとりに言葉がけを行ないましょう	

- 5月21日（土）プログラム詳細
担当リーダー
1年生：
2年生：
3年生：
5・6年生：
- 1：準備運動
2：サーキット運動
2セッティング：1・2年生、3・5・6年生 } 約20分
- 3：T-ボール
① キャッチボール（2人組）⇒ 全員で } 約25分
・ゴロ - ゴロ
・バウンド - バウンド
・ゴロ - スロー（交代合図）
・バウンド - スロー（交代合図）
・スロー - スロー（距離の延長）
- 4・5：守備練習、バッティング練習 ⇒ 1・2年生、3・5・6年生別に実施
② 守備練習（Bコート）⇒ 1・2年生グループ ⇒ 3・5・6年生グループ
2ヶ所：セカンド・ポジション ⇒ キャッチ後ファースト・スロー
ジョイント・ポジション ⇒ （ファースト担当：リーダー）
* 守備練習は、ノック形式でハンドノック、バットノックをゴロおよびバウンドの
記録係を行なう。
③ バッティング練習（Aコート）（3・5・6年生グループ ⇒ 1・2年生グループ）
2ヶ所バッティング：2グループに分けてナンバリングを行なう
・ナンバ1はバッター、2は控え、3以降は守備（ボール扱い）
・バッティングは5球交代
1カ所バッティング：
・ナンバ1はバッター、2は控え、3以降は守備（ボール扱い）
・バッティングは3球交代、3球目は打撃後ファーストに走る、
* 4・5の練習に関しては、合図により交代する



図-2 「子供スポーツ教室」プログラム表

「子供スポーツ教室」のプログラムのデイリープランとしては、今回の「子供スポーツ教室」では、インターネットの電子メールを活用して、当日までに各登録リーダーに対してプログラム表の送信を行なった（図-2）。

4-3:「子供スポーツ教室」プログラムの流れ

「子供スポーツ教室」のタイムスケジュールとしては、図-2が示すとおり、あらかじめ各リーダーに送信されたプログラム表をもとに、午前9時までに大阪国際大学校分校のグラウンドまたは体育館に集合した後にプログラムの準備を行う。

活動に参加するリーダーが全員集合したのち「リーダーズミーティング」を行い当日の進行および注意や確認事項の説明を行い、当日参加のリーダーたちを担当グループに分け子供たちの受け入れを行う。

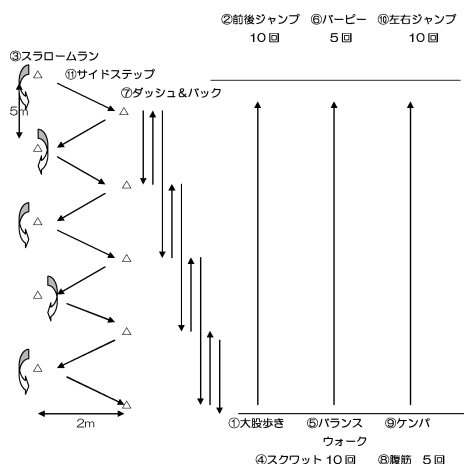
当日参加の子供たちは受付にて出欠の確認終了後、午前9時30分からプログラム開始する。

開始後のプログラムの流れとしては、①プログラムを始める前には、子供たち、保護者、リーダーたちと元気よく挨拶を交わす。②準備運動を行う。準備運動の内容は、身体を温めるジョギングと身体をほぐすための徒手体操を行う。③総合的運動として、小学1年生・2年生と3年生から6年生の2つのグループに分けて、担当リーダーたちと共にサーキット運動を行なう（図-3）。④スポーツ種目の練習および試合などを行う。⑤整理運動を行う。整理運動では、活動で使った身体をほぐすための徒手体操を行なう。⑥来

週の連絡事項の伝達と終わりの挨拶を交わしてプログラム終了となる。

サーキット運動

(1・2年生)



サーキット運動

(3年生 - 6年生)

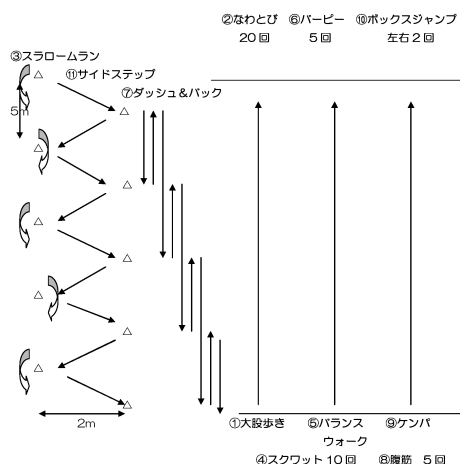


図-3 「子供スポーツ教室」サーキット運動

プログラム終了後は、子供たちのお見送り後、リーダーたちは後片付けを行い、最終ミーティングにおいて当日の反省点と来週のプログラムに関する連絡事項を伝達して「子供スポーツ教室」が終了する。

5：アンケート調査

2011年7月23日(土)の「子供スポーツ教室」最終日に、当日参加の保護者に対して「子供スポーツ教室」に対するアンケート用紙を配布し当日回収した。

アンケートの内容は以下の通りである。

- (1) 基本データ (保護者、参加者情報)
- (2) 施設に関する質問
- (3) プログラムに関する質問
- (4) 指導者に関する質問
- (5) 子供たちに関する質問 (健康・体力、情操、社会)
- (6) 希望・要望 (自由記述)

また、(2) から (5) までの質問に関しては、プログラム参加前の期待度とプログラム参加後の満足度について調査を行った。

5-1：アンケート調査結果および考察

アンケート当日スポーツ教室参加者は30名（参加率86%）であり、アンケート回収率では、アンケート用紙配布30名に対して回収（率）17名（57%）であった。

以下に、前述のアンケート調査の内容から（1）基本データ（保護者、参加者情報）、および、（3）プログラムに関する質問、（4）指導者に関する質問、（5）子供たちに関する質問（情操、社会）、（6）希望・要望（自由記述）の質問からは、（6）の希望・要望（自由記述）に記述された内容に関連した結果を示し考察を行った。また、今回は（2）施設に関する質問に関しては、物理的な問題であり大きな改善は短期的に見られないことを考慮し考察を行わなかった。

5-1-1：基本データ（保護者、参加者情報）に関する結果および考察



図-4 アンケート記入の保護者の性別および年代 (n = 17)

アンケート記入者（保護者 n=17）の性別では、男性 8 名（29%）、女性 4 名（24%）、未記入 5 名（29%）。年代では、30歳代10名（59%）、40歳代が 7 名（41%）であった（図-4）。

保護者の運動状況（複数回答可）に関しては、スポーツ・運動は行なっていないが最も多く11ポイント（61.1%）であり、硬式テニス、サッカー、ウォーキング、ジョギングは各 1 ポイント（5.6%）、その他ではヨガが 2 ポイント（11.1%）、ソフトバレー 1 ポイント（5.6%）であった（図-5）。

Dichotomy label	Pct of		
	Count	Responses	Cases
硬式テニス	1	5.6	5.9
サッカー	1	5.6	5.9
ウォーキング	1	5.6	5.9
ジョギング	1	5.6	5.9
その他	3	16.7	17.6
スポーツ運動は行なっていない	11	61.1	64.7
Total responses	18	100.0	105.9

図-5 保護者の現在行なっているスポーツ・運動（複数回答）

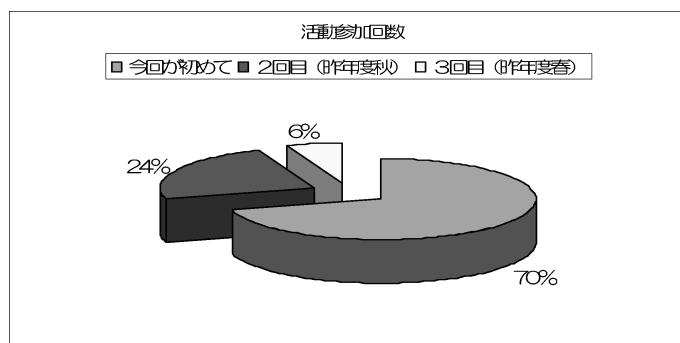


図-6 アンケート記入の保護者の子供の活動参加回数（n = 17）

「子供スポーツ教室」の参加回数（リピート回数）では、初めてが最も多く12名（70%）、2回目4名（24%）、3回目1名（5.9%）であった（図-6）。

「子供スポーツ教室」に参加した子供の性別では、男子11名（65%）、女子6名（35%）、年齢別では、6歳5名（29%）、7歳5名（29%）、8歳6名（35%）、未記入1名（6%）、学年別では、1年生5名（29%）、2年生8名（47%）、3年生4名（24%）であった（図-7）。

子供の習い事（複数回答可）については、水泳が最も多く14ポイント（77.8%）、体操、空手道が各1ポイント（5.6%）、スポーツ・運動は行なっていないが2ポイント（11.1%）であった（図-8）。

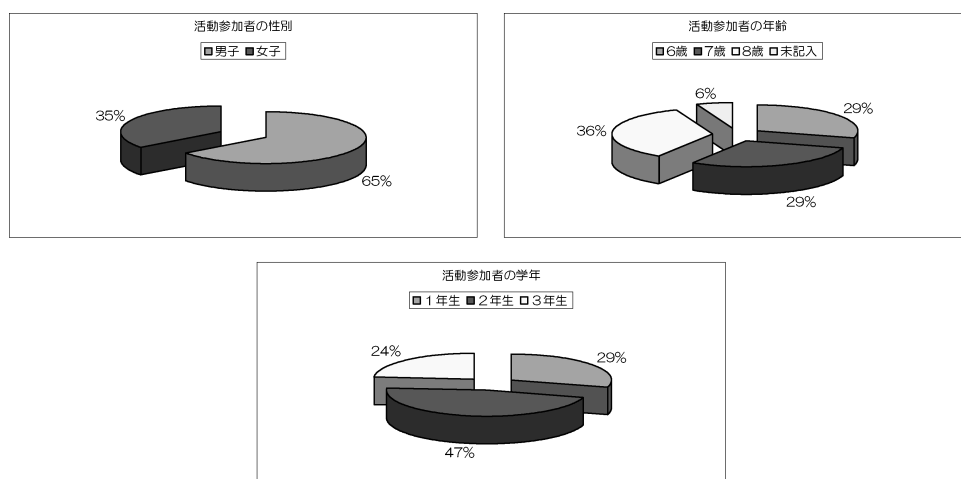
「子供スポーツ教室」への入会理由としては、保護者の意思が最も多く13ポイント（43.3%）、子供の意思8ポイント（26.7%）、施設・運営の理念に共感できたから・枚方市

広報が各3ポイント（10％）の順であった（図－9）。

以上の結果より、「子供スポーツ教室」に参加しているメンバーとメンバーの保護者の状況は、全参加メンバー35名に対して17名のメンバーの保護者が積極的にアンケートに協力していただいた。その結果からは、アンケート協力の保護者のほとんどは現在運動をしていなく、このことは全参加メンバーの保護者も同様と考える。

そして参加メンバーでは、「子供スポーツ教室」以外の活動としてスイミングスクールへの参加が多く、スイミングスクールが習い事のひとつの活動として根強い関心があることが考えられた。

また、入会理由では、「保護者の意思」が最も多く、次いで「子供の意思」が多かった。この「子供の意思」に関しては、「子供スポーツ教室」全メンバー35名中15名がリピーターであることから「保護者の意思」に次いで「子供の意思」が多かったことが考えられた。



図－7 アンケート記入の保護者の活動参加者（子供）の性別、年齢、学年（n＝17）

Dichotomy label	Count	Pct of	
		Responses	Cases
体操	1	5.6	6.3
空手道	1	5.6	6.3
水泳	14	77.8	87.5
スポーツ運動は行っていない	2	11.1	12.5
Total responses	18	100.0	112.5

1 missing cases; 16 valid cases

図－8 スポーツ教室以外で行なっている習い事（複数回答）

Dichotomy label	Pct of Pct of		
	Count	Responses	Cases
施設運営の理念に共感できたから	3	10.0	17.6
会費が予算に合ったから	2	6.7	11.8
子供の意思	8	26.7	47.1
保護者の意思	13	43.3	76.5
枚方市広報	3	10.0	17.6
その他	1	3.3	5.9
	-----	-----	-----
Total responses	30	100.0	176.5

図-9 お子様を入会させた理由（複数回答）

5-1-2：プログラム参加前の期待度とプログラム参加後の満足度に関する結果および考察

アンケート調査の最後に、希望・要望（自由記述）に記述された内容に関連した結果を示し考察を行った。以下に記述された内容を示す。

a) 初めて参加の保護者の意見

- ・ 学生リーダーさんの積極的な技術指導を期待します（投げ方や体の使い方など）。（1年生の男子保護者）
- ・ 最初と最後の体操で、初めてなのでできない事とかができるようになってきて楽しかったみたいで家でもよくやっていました。「スポーツ苦手っ子」と募集の時書かれていたのを見て、体操系のスクールと思って参加したので、マットや鉄棒がないのは少し残念でしたが、みなさん楽しくご指導くださったので、楽しそうに運動していて良かったです。内容にはどれも満足ですが、最初の体力テストで苦手な分野をみつけて、苦手な種目でグループ分けをして活動をして面白いかと思いました。（投げる・受ける中心のグループ、かけっこ中心のグループ等）3ヶ月間ありがとうございました。（1年生の男子保護者）
- ・ うちとけるのに時間がかかる子なので、もっと積極的に話しかけたりしてほしかった。サッカーや野球など男の子が興味のあるものばかりで女の子が少ないのは残念でした。（2年生の女子保護者）
- ・ スポーツが苦手な子向けの教室ですので、例えばボールの投げ方のコツを教えてもらい、人並みにできるようになるということを期待していました。しかし、指導している様子はあまり見られなかったと思います。子供は楽しそうにしていたので、それは良かったのですが、上の点も改善していただけるともっと良くなると思いますので、よろしくお願いいたします。（2年生の男子保護者）
- ・ 子供の取り組み方に注意すべきだ、特に体育館では個々が自由すぎて半分プログラムになってないように思えた。リーダーも子供に注意すべき。（1年生の女子保護者）
- ・ とても楽しく毎週参加するのが楽しみだったようです。また、日程があれば参加させ

たいです。ありがとうございました。（３年生の女子保護者）

b) リピート参加の保護者

- ・ 今回もとても楽しそうに参加していました。何かが上達するといった結果はまだあまり出ていませんが、楽しんでスポーツをしてくれているので満足です。ありがとうございました。（２年生の男子保護者）
- ・ とても楽しくスポーツをしていました。ありがとうございました。（２年生の女子保護者）

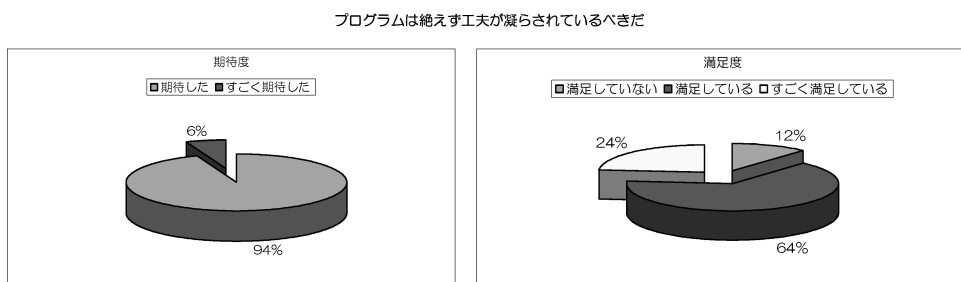
- ・ 前回も参加したので子供が前とほとんど同じことしかないと言っていました。回を重ねるほど内容に工夫して欲しい。（３年生の男子保護者）
- ・ 費用が安ければ参加しやすい。（３年生の男子保護者）

以上が自由記述の結果であるが、自由記述に記入いただいた事項に関しては「子供スポーツ教室」に対して最も重要性があると考えることから、この自由記述に関連すると思われる回答結果に関して事項に示し考察を行なった。

５－１－３：自由記述の内容に関連するアンケート結果

以下に自由記述の内容に関連すると思われるアンケート調査結果を示す。

a) プログラムについての関連結果



図－10 「プログラムは絶えず工夫が凝らされているべきだ」の期待度および満足度

「プログラムは絶えず工夫が凝らされているべきだ」の質問では、活動参加前の期待度では、期待した16名（94%）、すごく期待した1名（6%）に対して、活動終了後の満足度では、満足していない2名（12%）、満足している11名（64%）、すごく満足している4名（24%）の結果を得た（図－10）。

「子供の技術レベルに合わせてクラスは運営されるべきだ」の質問では、活動参加前の期待度では、期待していない5名（29%）、期待した10名（59%）、すごく期待した2名（12%）に対して、活動終了後の満足度では、満足していない3名（18%）、満足している10名（58%）、すごく満足している4名（24%）の結果を得た（図－11）。

子供の技術レベルに合わせてクラスは運営されるべきだ

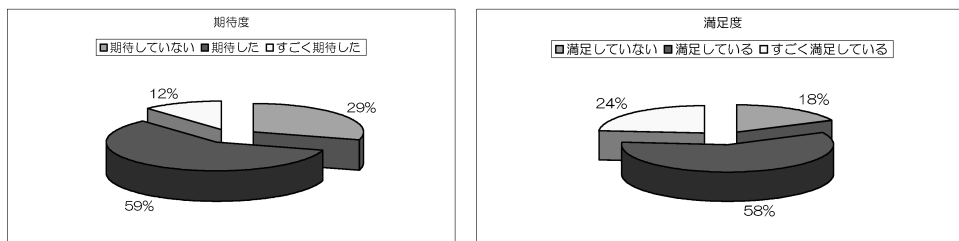


図- 11 「子供の技術レベルに合わせてクラスは運営されるべきだ」の期待度および満足度

b) 指導者についての関連結果

「指導者は子供に対して個別的な注意を払うべきだ」の質問では、活動参加前の期待度では、期待していない1名（6%）、期待した15名（88%）、すごく期待した1名（6%）に対して、活動終了後の満足度では、満足していない2名（12%）、満足している9名（53%）、すごく満足している6名（35%）の結果を得た（図-12）。

指導者は子供に対して個別的な注意を払うべきだ

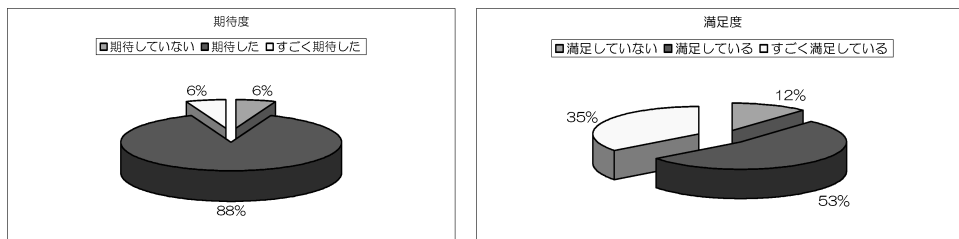


図- 12 「指導者は子供に対して個別的な注意を払うべきだ」の期待度および満足度

指導者は専門的な知識と技術を習得しておくべきだ



図- 13 「指導者は専門的な知識と技術を習得しておくべきだ」の期待度および満足度

「指導者は専門的な知識と技術を習得しておくべきだ」の質問では、活動参加前の期待

度では、期待した16名（94%）、すごく期待した1名（6%）に対して、活動終了後の満足度では、満足していない2名（12%）、満足している10名（59%）、すごく満足している5名（29%）の結果を得た（図-13）。

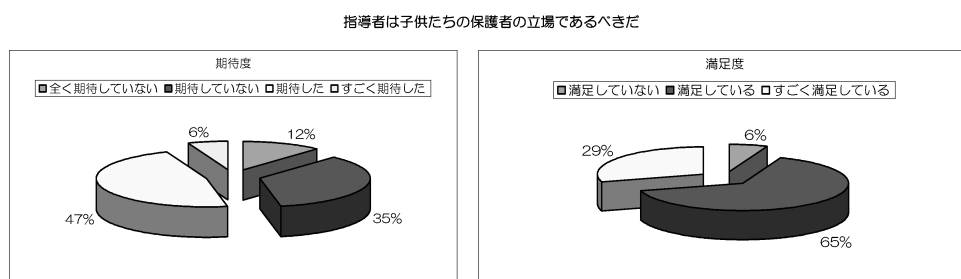


図-14 「指導者は子供たちの保護者の立場であるべきだ」の期待度および満足度

「指導者は子供たちの保護者の立場であるべきだ」の質問では、活動参加前の期待度では、全く期待していない2名（12%）、期待していない6名（35%）、期待した8名（47%）、すごく期待した1名（6%）に対して、活動終了後の満足度では、満足していない1名（6%）、満足している11名（65%）、すごく満足している5名（29%）の結果を得た（図-14）。

c) 入会しているお子様への関連結果（健康・体力・スポーツ関連）



図-15 「運動が好きな子になってほしい」の期待度および満足度

「運動が好きな子になってほしい」の質問では、活動参加前の期待度では、期待していない3名（18%）、期待した10名（58%）、すごく期待した4名（24%）に対して、活動終了後の満足度では、満足していない3名（18%）、満足している11名（64%）、すごく満足している3名（18%）の結果を得た（図-15）。

運動能力を高めてほしい

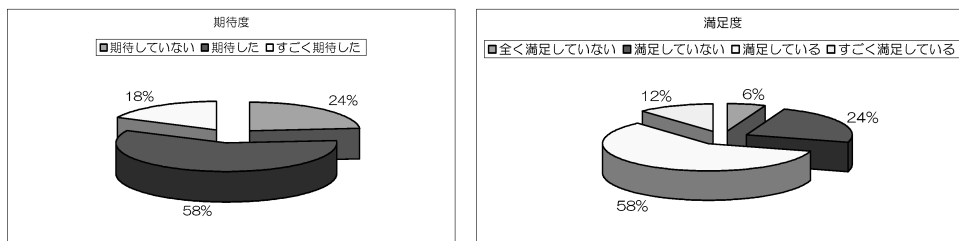


図- 16 「運動能力を高めてほしい」の期待度および満足度

「運動能力を高めてほしい」の質問では、活動参加前の期待度では、期待していない4名(24%)、期待した10名(58%)、すごく期待した3名(18%)に対して、活動終了後の満足度では、全く満足していない1名(6%)、満足していない4名(24%)、満足している10名(58%)、すごく満足している2名(12%)の結果を得た(図-16)。

d) 入会しているお子様への関連結果(情操関連)

積極的に物事に取り組んでほしい



図- 17 「積極的に物事に取り組んでほしい」の期待度および満足度

「積極的に物事に取り組んでほしい」の質問では、活動参加前の期待度では、期待した13名(76%)、すごく期待した4名(24%)に対して、活動終了後の満足度では、満足していない3名(18%)、満足している12名(70%)、すごく満足している2名(12%)の結果を得た(図-17)。

「明るい子になってほしい」の質問では、活動参加前の期待度では、期待していない2名(12%)、期待した11名(64%)、すごく期待した4名(24%)に対して、活動終了後の満足度では、満足している13名(76%)、すごく満足している4名(24%)の結果を得た(図-18)。

明るい子になってほしい



図－18 「明るい子になってほしい」の期待度および満足度

e) 入会しているお子様への関連結果（社会性関連）

仲間と助け合ってほしい



図－19 「仲間と助け合ってほしい」の期待度および満足度

「仲間と助け合ってほしい」の質問では、活動参加前の期待度では、全く期待していない1名（6%）、期待した15名（88%）、すごく期待した1名（6%）に対して、活動終了後の満足度では、満足していない4名（24%）、満足している12名（70%）、すごく満足している1名（6%）の結果を得た（図－19）。

以上の自由記述に関連する質問の結果から、「子供スポーツ教室」に参加している子供たちの保護者たちは、特に今回の募集では「スポーツ苦手っ子集まれ」のキャッチコピーとして生徒募集をして入会させていることから、小学校の体育授業で「できない」ことを「できる」ようにしてもらえることを「子供スポーツ教室」に対する期待度が高い事が示唆できた。

また、期待度・満足度の結果からは、一部の保護者に関しては、「苦手を克服してほしい」との希望がありながらも、スポーツ活動以外の取り組みや活動理念に対する共感を「活動している子供たちから感じ取った保護者も存在する」ことが確認できた。

5－1－4：今後子供スポーツ教室に希望するプログラムに関する結果

以下に、今後「子供スポーツ教室」に希望するプログラムについて運動・スポーツ系、野外活動系（複数回答可）の2分野について回答を得た（図－20）。

Dichotomy label	Pct of		
	Count	Responses	Cases
宿泊を伴った林間キャンプ	5	13.9	33.3
宿泊を伴った海洋キャンプ	1	2.8	6.7
宿泊を伴ったスキーキャンプ	1	2.8	6.7
定期的なデイキャンプ	7	19.4	46.7
球技系	5	13.9	33.3
陸上系	7	19.4	46.7
体操系	7	19.4	46.7
ニュースポーツ系	1	2.8	6.7
その他	2	5.6	13.3
	-----	-----	-----
Total responses	36	100.0	240.0

2 missing cases; 15 valid cases

図－20 希望プログラム（野外活動系、スポーツ系）

図－20の結果から、今後「子供スポーツ教室」に希望するプログラムとしてスポーツ系では、陸上・体操系が最も多く、その具体的内容としては、陸上系では「かけっこ」体操系では「鉄棒・マット運動」が多く上げられていた。この結果は「小学校における体育授業」において、保護者たちが「子供の苦手種目を克服させてあげたい」との思いが強いと考える。

また、野外活動系では「定期的なデイキャンプ、宿泊を伴うキャンプ」に希望が多く、非日常的な活動を子供たちに体験をさせたい保護者の思いが強いと考える。この結果に関しては事項の野外活動報告の中での参加率の高さからも示唆できるものとする。

6：その他 野外活動報告

要項

日 程：2011年（平成23年）6月16日（土）雨天決行

場 所：枚方市 野外活動センター

時 間：午前9時40分から16時

集合解散：京阪バス穂谷バス停

活動内容：野外炊飯（メニュー：カレー）、レクリエーション・ゲーム

活動参加：渚体育館、総合体育館、大阪国際大学ジュニアスポーツスクールメンバー

特に、今回の生徒募集の「スポーツ苦手っ子集まれ」のキャッチコピーでは、「苦手を克服してくれる」ことを希望する保護者が、子供たちを入会させ参加させることが高くな

ることは当然のごとく考えられ、このことは「子供スポーツ教室」の理念や活動理念からは大きなズレがあると考ええる。本来の理念や活動理念に即した生徒募集を行う事は今後の「子供スポーツ教室」の活動をより充実した活動にすることが確認できた結果となった。

また、具体的な「子供スポーツ教室」の活動・運営に対する課題としては以下の事項が考えられた。

リーダーシップの課題：プログラムを指導する補助リーダー役割においても、専門分野の知識を取得する機会が必要であるので、マネジメントサイクルに指導者養成の事前講習等の設置が必要と考えられる。また、実践経験として、こどもに関係する教育施設等での実習がのぞましいと考えられる。(経験不足、専門分野の知識学習の機会) 学生の成果：プログラムの補助指導者として、人と人とのコミュニケーションの方法を学び、自ら指導する事により様々な問題解決方法を体験し、自ら学ぶ積極的行動に目覚めた事等が挙げられる。本プログラムは、学生がこどもを指導することにより自らが成長し、参加メンバーも新しい体験を通じてこども自身も成長する機会であると言えよう。その為社会教育としての実践・実習の場が、保護者の理解と指導者の熱意そしてメンバーの楽しさがその重要な根源であると考えられる。次回よりたのしさを失わず科学的な運動指導法をカリキュラムに取り入れる事が課題である。2011年度(平成23年度)「子供スポーツ教室」の後期の活動が、平成23年10月1日から平成23年12月17日までの予定で開催しているが、後期の活動・運営では前期での課題を考慮した「子供スポーツ教室」を行なっている。

参考文献

- 1) 「公益財団法人 枚方体育協会ホームページ」、<http://hirakata-taikyo.org/>
- 2) 「青少年のスポーツライフ・データ2006-10代のスポーツライフに関する調査報告-」、発行者：小野清子、発行年月日：2006年3月15日、発行所：SSF 笹川スポーツ財団
- 3) 「青少年のスポーツライフ・データ2006-スポーツライフに関する調査報告-」、発行者：小野清子、発行年月日：2006年12月25日、発行所：SSF 笹川スポーツ財団
- 4) 「公認スポーツ指導者養成テキスト-共通科目Ⅰ- 第7章」、発行年月日：平成17年2月25日、編集発行：財団法人 日本体育協会
- 5) 「東アジアの大都市におけるスイミングスクール会員保護者のニーズに関する一考察 -スイミングスクール会員の女性保護者の期待度・満足度-」、大阪体育学会第48回大会大阪体育学研究50周年記念大会、平成22年3月、古賀典之・世戸俊男

